



1人ひとりの患者さんに寄り添い 「また来ようかな」と診療を継続 してもらえるクリニックを目指す

東京区内の主要各駅に30分圏内と交通アクセスも抜群な東京都中野区。暮らしやすい環境が整った住宅地は、働く若い世代や学生などに人気のエリアです。今号では、JR中野駅そば、多くの店が軒を連ねる賑やかな商店街にほど近い医療機関複合ビル内に糖尿病の専門クリニックを開業している「さいしょ糖尿病クリニック」取材。税所芳史院長に楽しいお話を伺いました。

糖尿病治療を継続しやすい 環境づくりのために 利便性が抜群な地を開業

「さいしょ糖尿病クリニック」の特長の1つが、JR中野駅から徒歩3分というアクセスのよい場所にある点です。院長の税所先生は糖尿病の治療について「中断せずに継続していくことが何よりも大切」との考えから、患者さんが治療を継続しやすい環境づくりをこころがけているそうです。そのためには、治療中断の条件を極力減らす必要があり、都心部の駅から近く、素早くアクセス可能な場所に開業することにしたそう

です。

また同クリニックは、各階に眼科、歯科、泌尿器科、薬局などが連なる「地域のための医療ビル」内にあります。糖尿病では、とくに眼科でのチェックは重要となりますが、かかりつけのない患者さんなどにはビル内の眼科を紹介し、逆に眼科や泌尿器科から血糖が心配な患者さんの紹介を受けるなど、ビル全体が総合病院に近いイメージで、連携してサポートし合っているとのこと。

患者さんにとっても、同じビル内に関連の診療科があると通いやすいというメリットもあり、階をまたがって利用している患者さんも多いそうです。

1人ひとりの患者さんに 寄り添うチーム医療を こころがける

同クリニックは糖尿病の専門クリニックとして、検査機器の整備などはもちろんのこと、糖尿病専門医のほか看護師2名、管理栄養士1名により、栄養相談や療養指導についても綿密に連携して常に情報を共有しながら、しっかりと行える体制を整えています。

糖尿病は、長期にわたって病気と付き合い合っていく必要があり、合併症が出ないようにすることがいちばんの目標です。そのために患者さんと長く付き合い



クリニック受付（内覧会時）



患者さんからの相談風景（内覧会時）

くことが、糖尿病専門クリニックの役目だといいます。

そのため、糖尿病自体のほか、付随して起こる併発症やさまざまなライフイベントなどについてトータル的にサポートし、1人ひとりの患者さんに寄り添うチーム医療をこころがけ、「また来ようかな」と思ってもらえるように工夫しながら診療にあたっているそうです。

若い世代の患者さんの 早期発見、早期治療、 治療の継続に貢献

糖尿病を専門として掲げている同クリニックには、比較的若い世代の患者さんが多く訪れるそうです。健診で血糖を指摘されたり、しびれや急な体重減少などの自覚症状が気になった「血糖に不安はあるけど病院には行きにくい…」というような方が「専門のクリニックだったら…」と来院するケースが少なくないとのこと。

これまで「こんな生活を続けてはいけない」と何となく自覚していても自分1人ではなかなか実行できなかった患者さんが、栄養相談や療養指導により生活習慣を改善してみると体調がよくなり「この生活を続けていきたい」といわれることに、糖尿病専門クリニックにお

けるやりがいを実感。「早期発見、早期治療、治療の継続」という点から糖尿病の専門クリニックを開院した意義は大きい」と、手応えを感じているそうです。

新型コロナウイルスの流行時期もドロップアウトすることなく定期通院を続けている患者さんがほとんどで、再診率や血糖コントロール状態も概ね良好とのこと。

患者さんとクリニックの ニーズをマッチさせるべく ホームページ作成にも注力

若い世代の患者さんが多いという点について、駅から近くアクセスが便利であることのほか、クリニックのホームページも効果を発揮しているようです。糖尿病が心配で通院を考える場合、インターネットで通院可能な地域のクリニックを探したり、「もしかしら糖尿病?」というような方が「専門のクリニックだったら…」と来院するケースが考えられます。それらから「もし自分だったら、こんなホームページなら受け入れやすい」という視点で、自ら作成したとのこと。

ホームページを見るだけでも糖尿病についての基礎知識を理解してもらえ、療養につながるように、わかりやすい内容にまとめられているほか、ブログや講演会の記録などを掲載し、どのようなフ

リニック、医師、スタッフなのかを患者さんに伝わるようなホームページに仕上がっています。

糖尿病について、税所先生の専門である「β細胞」の役割などを説明しているホームページを見ることで、なぜ血糖が上がるのか、なぜ治療薬を使うのかなどについての理解度が、格段に上がっているようです。

ホームページを見て「体内にわずかに1gのβ細胞を大事にしないと…」と思ってもらえれば、将来の合併症予防のための行動変容につながりやすいとのことでした。

最後に、糖尿病専門クリニックとしての実績を積み上げることで、β細胞を中心に考えた診療をより広めていきたいというお考えのほか、地域の医療レベル向上と糖尿病診療の進歩に少しでも貢献していきたいと、今後の抱負を語られました。

「人と人との対話」を大切に、白衣をあえて着ず、診察室というよりも相談室のようなイメージで、患者さんが話しやすい気軽に寄れるクリニックが理想という税所先生の笑顔が印象的でした。多くの糖尿病患者さんを守り、地域医療を活性化してくれることでしょう。



医療ビル外観



院長 税所芳史先生